

南信州地域の農業生産状況の変化について

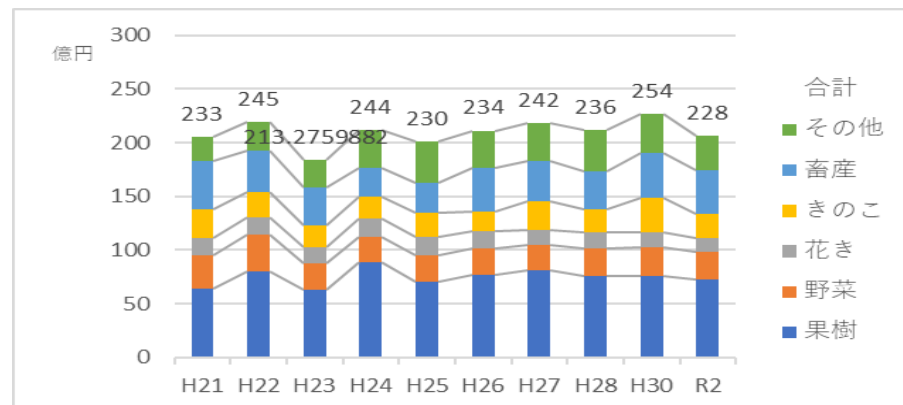
1 労働力補完の取組事例 (南信州地域振興局調べ) H27~R3 に新たに開始した取組

- 行政とシルバー人材センターが連携した取組(松川町、阿南町、阿智村、根羽村)
- 援農ボランティア (飯田市、高森町、**豊丘村**)
- 農作業請負方式 (天龍村、泰阜村、大鹿村、**下伊那園芸農業協同組合**)
- その他 (**幹旋(1日農業バイト「daywork」※**)、無料職業紹介所)

※JA長野県農業労働力支援センター(H31年4月設立)が構築したスマホアプリ
R3 南信州地域利用実績：市田柿加工、その他果樹作業、野菜作業、搾乳など
利用延農家数 166 戸(実数 42 戸)、延作業数 1,865 人(実数 298 人)

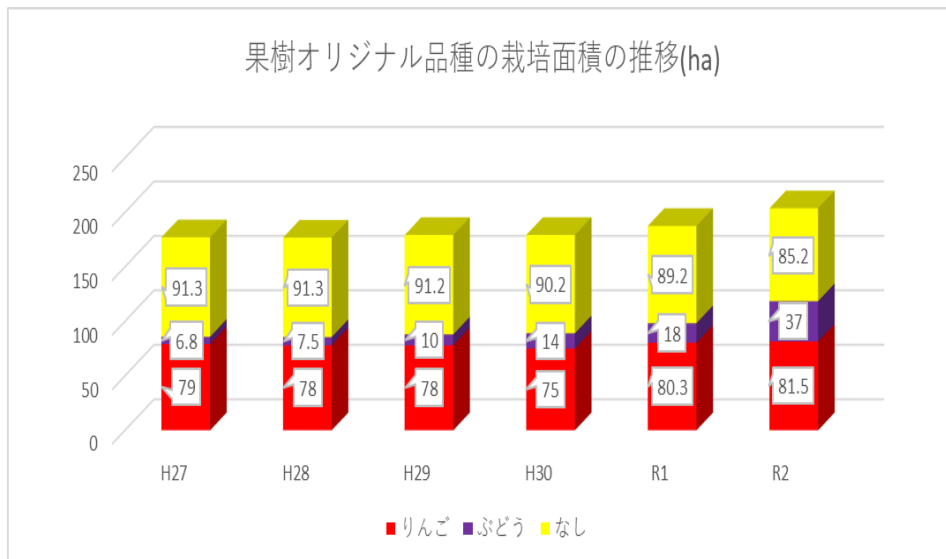
新たな労働力補完の仕組みが構築され、令和3年度農家 42 戸(延べ 166)で作業者 298 人(延べ 1,865 人)が利用するなど、多くの農家の利用が進みました。

2 産出額 (南信州地域振興局推計値)



管内の農業産出額は、240 億円前後で横ばいです。令和2年度の内訳は、果樹が 73 億円で全体の 32%、次いで畜産、野菜となっています。

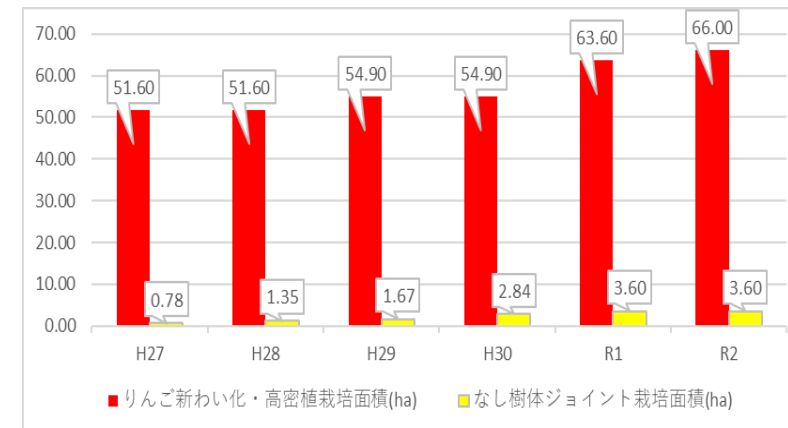
3 果樹オリジナル品種の生産状況 (南信州地域振興局調べ)



この5年間で、ぶどうは 5.4 倍、りんごは 3% 増加しましたが、なしは 7% の減少となっています。

オリジナル品種
りんご：シナノスイート、シナノゴールド、秋映、シナノリップ
ぶどう：ナガノパープル、シャインマスカット、クイーンルージュ
なし：南水、サザンスイート

4 果樹栽培における新技術の導入状況 (南信州地域振興局調べ)



この5年間で、なし樹体ジョイント栽培は 4.6 倍に、りんご新わい化・高密度栽培は 28% 増加しました。



5 スマート農業技術の導入状況 (南信州地域振興局調べ)

(単位:台数)

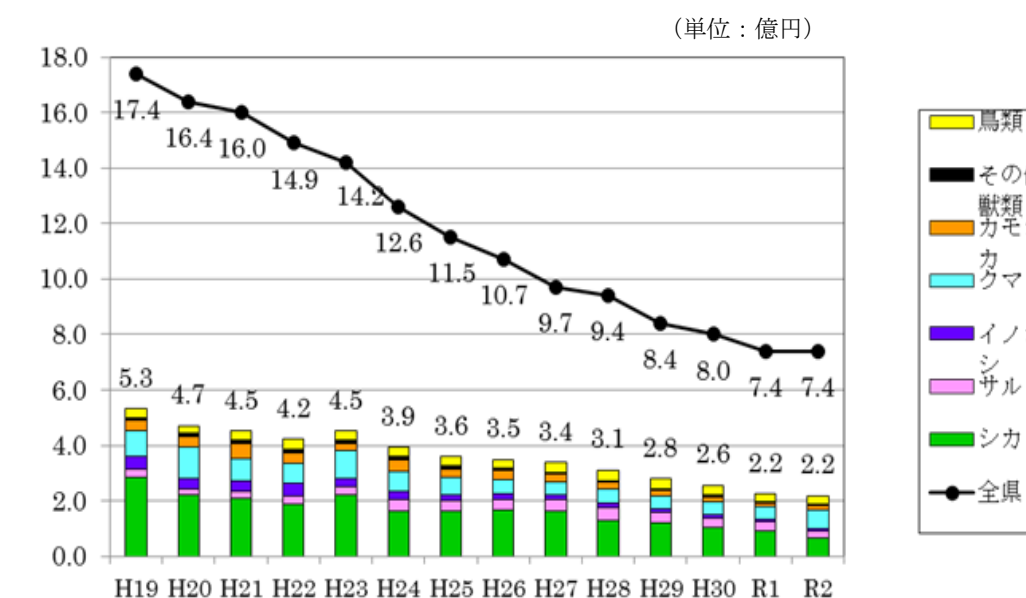
技術の内容	H27	R2
農業用マルチローター	0	1
ロボット草刈機	0	50
施設園芸用環境モニタリング装置	0	7
酪農・肉牛等監視システム	1	13
非破壊糖度計	0	0
アシストスーツ	0	0

マルチローターによる水稲防除作業

スマート農業技術のうち、果樹栽培でロボット草刈機、施設園芸では環境モニタリング装置、畜産では牛監視システムの導入が進みました。また、農業用マルチローターによる水稲防除面積は令和2年度に 16ha となりました。



6 野生鳥獣による農林業被害額 (南信州地域振興局調べ)



野生鳥獣による農林業被害は減少傾向です。これは、防護柵設置延長の増や捕獲数の増加によるものと考えられます。
ニホンジカによる被害が、南信州では約 3 割を占めます。
被害全体の中の割合は大きくありませんが、特にニホンザルやハクビシンなどによる農作物被害が農業意欲の減退に及ぼす影響は深刻な課題と言えます。